

第二次・第三次の施策体系の一覧

第二次長野市スポーツ推進計画 施策体系

施策1 だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進	
施策1-1 健康寿命の延伸に寄与する生涯スポーツの推進	
(1) 世代に応じた生涯スポーツプログラムの提供	
1-1	子どもたちのスポーツ活動の充実
1-2	働く世代のスポーツ活動の充実
1-3	高齢者のスポーツ活動の充実
1-4	分野連携による健康づくりの推進
1-5	大学等の研究機関と連携した研究
(2) スポーツイベントの開催	
2-1	多様なスポーツイベントの開催
(3) スポーツに関する情報提供	
3-1	スポーツ教室やイベントに関する情報提供
3-2	サークルやスポーツ指導者に関する情報提供
3-3	スポーツ施設に関する情報提供
(4) スポーツ施設等の活用	
4-1	スポーツ施設の無料開放
4-2	各地域のウォーキング・トレッキングコースの活用
施策1-2 地域における自主的なスポーツ活動の促進	
(1) スポーツ推進委員の資質向上	
1-1	スポーツ推進委員の資質向上
(2) 総合型地域スポーツクラブとの積極的な連携や協働	
2-1	総合型地域スポーツクラブの創設と連携
2-2	地域の特性に応じたスポーツ教室の開催
(3) 地域コミュニティ団体のスポーツ活動の促進	
3-1	住民自治協議会等が実施するスポーツ活動の促進
3-2	公民館によるスポーツ活動
施策1-3 障害者のスポーツ参加の機会拡大	
(1) 障害者のスポーツ参加の機会拡大	
1-1	関係機関との連携
1-2	障害者スポーツの普及・振興
1-3	だれもが使いやすい施設づくりの推進
施策1-4 競技力の向上と底辺の拡大	
(1) 競技力の向上	
1-1	市スポーツ協会との連携・協力体制の強化
1-2	スケート競技の拠点化
1-3	地域密着型プロスポーツチームとの連携
(2) 競技スポーツ人口の拡大	
2-1	競技人口の拡大
2-2	選手育成・タレント発掘
施策1-5 スポーツ施設の計画的な整備・改修及び適正な管理運営	
(1) スポーツ施設の整備・改修	
1-1	スポーツ施設の適正配置及び計画的な改修
1-2	市民ニーズの把握
(2) スポーツ施設の適正な管理・運営	
2-1	スポーツ施設の適正な管理・運営

【現状と課題】	【今後の方向性】
- 市内の運動・スポーツ人口は横ばいである。 - 台風災害やコロナ禍でスポーツをする環境が制限される中、スポーツ実施率を維持できたのは、市民アンケートの結果から身近で気軽に実施できる運動を行ったと捉えることができる。 - 市民の多くは「運動・スポーツは大切なもの」と捉えている。	- スポーツをするきっかけづくり、習慣化に向けた情報発信、スポーツ施設の有効活用。 - 子どもは、遊びなどからスポーツへの興味を引き出し、継続したスポーツ活動へつなげていく。 - 大人には、多様化するニーズ（「個人で自由に」「思い立った時に、気軽に実施したい」等）に対応したコンテンツを提供していく。
- 世代や体力に応じたスポーツや運動の普及には、居住エリアに近い場所でスポーツをする場を増やしていくことが重要。 - 総合型地域スポーツクラブの会員数は縮小しているが、参加意向は45.0%となっている。 - 地域のスポーツ活動を促進するためには、スポーツ推進委員を養成するとともに、公民館等と連携しながら草の根的な広がりをつくっていくことが重要となる。	総合型地域スポーツクラブの認知度を高めながら、活動への参加者を増やす。スポーツ推進委員を通じた各地域のスポーツ活動を充実する。
- 本市の高齢化率は、全国に比べると若干高い状態。 - 健康寿命の延伸や社会保障費の抑制等の観点から、スポーツの健康増進効果の重要性が高まっている。その際、健康づくり分野、高齢者福祉分野との連携が重要となる。 - 障害者スポーツに関わったことがある市民は11.2%にとどまっている。障害者スポーツの体験会やイベントの普及・啓発効果を高めるためには、これまで関わったことのない市民に向けての情報発信を強化していく必要がある。 - スケートを中心に全国大会や国際大会で入賞するアスリートが増えてきている。市民の誇りと喜びとなり、本市のスポーツ環境全体に活力を生み出している。 - 国民スポーツ大会に向け各種競技スポーツの人口拡大、指導者の育成、競技団体の運営基盤の強化が求められる。その際、取組の実施計画を立て、成果を評価する等、効果的な施策にしていくための工夫も求められる。 - 人口減少社会の中で、公共施設の適正配置、長寿命化の必要性が高まっている。長野市公共施設等総合管理計画に沿って、適切に適正配置、長寿命化等を進めていく必要がある。 - 適正配置によって、スポーツ人口が減らないよう、他のスポーツ振興施策を組み合わせながら、スポーツ活動の場の確保に十分に配慮していくことが求められる。	- エビデンスに基づく運動による健康づくりの推進。 - 障害者スポーツイベントの開催、情報発信の強化。
	- 競技団体の運営基盤の強化。 - 国民スポーツ大会に向けた競技力の向上。
	- スポーツ施設の適正配置、長寿命化を進める。 - 地域におけるスポーツ活動の場の確保。 - 利用にあたっての利便性の向上。

スポーツ人口を増やすための施策

健康寿命の延伸のための施策を
施策1-1から1-3へ移動

第三次長野市スポーツ推進計画 施策体系案

施策1 だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進	
施策1-1 スポーツ人口の拡大	
(1) スポーツを始めるきっかけづくり	
1-1	多様なスポーツイベントの開催
1-2	スポーツ施設の無料開放
(2) 世代に応じたスポーツプログラムの提供	
2-1	子ども世代のスポーツ活動の充実
2-2	大人世代のスポーツの習慣化の促進
2-3	大学等の研究機関と連携した研究
(3) スポーツに関する情報提供の充実	
3-1	スポーツ教室やイベントに関する情報提供
3-2	サークルやスポーツ指導者に関する情報提供
3-3	スポーツ施設に関する情報提供
施策1-2 地域における自主的なスポーツ活動の促進	
(1) 総合型地域スポーツクラブとの連携の推進	
1-1	総合型地域スポーツクラブが実施するスポーツ活動への支援
1-2	総合型地域スポーツクラブの運営基盤の強化
(2) スポーツ推進委員によるスポーツ活動の促進	
2-1	スポーツ推進委員によるスポーツ活動の促進
(3) 地域コミュニティ団体のスポーツ活動の促進	
3-1	住民自治協議会等が実施するスポーツ活動の促進
3-2	公民館におけるスポーツの推進
施策1-3 スポーツを通じた共生社会の実現	
(1) スポーツを通じた健康増進	
1-1	生活習慣病予防との連携の推進
1-2	介護予防との連携の推進
(2) 障害者のスポーツ参加の機会拡大	
2-1	関係機関との連携
2-2	障害者スポーツの普及・振興
2-3	だれもが使いやすい施設づくりと利用促進
施策1-4 競技スポーツの普及と競技力の向上	
(1) 競技スポーツの普及	
1-1	競技スポーツの普及・拡大
1-2	選手育成・タレント発掘
(2) 競技力の向上	
2-1	市スポーツ協会との連携・協力体制の強化
2-2	スケート競技の拠点化の推進
施策1-5 スポーツ施設の適正配置・長寿命化と管理・運営	
(1) スポーツ施設の適正配置と長寿命化の推進	
1-1	計画的な適正配置の推進
1-2	計画的な長寿命化の推進
(2) スポーツ施設の管理・運営	
2-1	利用者ニーズを踏まえた使いやすい環境整備
2-3	適正な管理・運営

プロスポーツチームと検討中

新たに設定

新たに設定

施策2 スポーツを通じた交流の拡大

施策2-1 国際大会や全国大会などの誘致・開催	
(1) 国際大会や全国大会などの誘致・開催	
	大規模施設を有効活用した国際大会や全国大会の誘致・開催
(2) 宿泊滞在型のスポーツイベントの促進	
	宿泊滞在型のスポーツイベントの継続開催
	関係団体との連携
施策2-2 地域密着型プロスポーツチームとの連携	
(1) A C 長野バルセイロとの連携	
	「長野市ホームタウン包括連携協定」による地域振興
(2) 広域での連携による交流人口の拡大	
	北信地域の地域密着型プロスポーツチームとの連携
施策2-3 オリンピックムーブメントの推進	
(1) オリンピックムーブメントの継承	
	長野オリンピックを契機とした有形無形の財産の活用
(2) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会との連携	
	事前合宿等の誘致
	文化プログラムとの連携

【現状と課題】	【今後の方向性】
- 地域密着型プロスポーツチームとの様々な連携事業を実施している。一方で、AC長野バルセイロのホームゲームが行われる南長野運動公園総合球技場の入場者数は年々減少傾向にある（R1～2は台風災害やコロナ禍の影響が考えられる）。 - 連携事業で互いが目指す成果を見える化するとともに、成果をあげるために、選択と集中の考え方で事業内容を精査していく必要がある。 - 大規模施設が活用され国際大会・全国大会が毎年開催されている。 - 大会・スポーツイベント等の誘致が継続的に実施できる体制が整っている。アフターコロナを見据えて、今後も誘致を行っていくことが求められる。	- スポーツ推進計画と連動した地域密着型プロスポーツチームとの連携推進ビジョンの策定。 - 連携推進ビジョンへの指標設定とPDCAサイクルをまわす取り組みの徹底。 - アウェイツーリズムの充実。
国際大会・全国大会の継続的な誘致・開催。	
- オリンピック教室が毎年開催され、延べ受講者数が増えている。 - オリンピックデーランが毎年開催されている。	JOCと締結した「パートナー都市協定」を活用し、オリンピックムーブメントを推進する。

施策2 スポーツを通じた交流の拡大	
施策2-1 地域密着型プロスポーツチームとの連携の推進 ※検討中	
(1) 地域密着型プロスポーツチームとの連携	
1-1	「連携ビジョン」による地域振興
(2) 広域での連携による交流人口の拡大	
2-1	広域での地域密着型プロスポーツチームとの連携
施策2-2 国際大会や全国大会などの誘致・開催	
(1) 国際大会や全国大会などの誘致・開催	
2-1	大規模施設を有効活用した国際大会や全国大会の誘致・開催
(2) 宿泊滞在型のスポーツイベントの促進	
2-1	宿泊滞在型のスポーツイベントの継続開催
2-2	関係団体との連携
(3) 2028年の国民スポーツ大会等に向けた準備	
3-1	国民スポーツ大会・全国障害者障害者スポーツ大会に向けた準備
施策2-3 オリンピック・パラリンピックムーブメントの推進	
(1) オリンピック・パラリンピックムーブメントの継承	
1-1	長野オリンピック・パラリンピックを契機とした有形無形の財産の活用
(2)開催都市間の連携	
2-1	開催都市間の連携